

地理 A、地理 B

第 1 高等学校教科担当教員の意見・評価

地 理 A

1 前 文

「地理 A」は国際化の進展等社会の変化に伴って現代世界が抱えている課題を地理的に考察することに重点が置かれている。そのために、作業的、体験的な学習を重視し地理的技能を高めることや、今日の課題を日常生活と関連付けて取り扱い、生徒の興味・関心に配慮した内容や方法を工夫したところに特徴がある。

平成 24 年度の大学入試センター試験（以下「センター試験」という。）は、志願者数、受験者数とも昨年度より減少したものの、地理歴史科の受験者数は増加し 373,351 人（追・再試験受験者を含む）となった。教科全体としては 6,058 人増加している。今年度より地理歴史科と公民科の選択方法が変更となり、同一名称を含む科目の組合せを除き、両教科より最高 2 科目を選択できることとなった。そのため、地理歴史科から 2 科目の選択者を含む延受験者数は 389,100 人となっているが、地理歴史科・公民科からの 2 科目受験者数は 179,217 人と昨年度より 51,207 人と大幅に減少している。

一方、B 科目全体では 26,115 人の増加に比し、A 科目全体では逆に 4,370 人減少している。中でも「地理 A」の延受験者数は 2,696 人で、昨年度に比べ 2,649 人の減少となり、増加率で見ると「地理 B」の 16.6%、「世界史 B」3.2%、「日本史 B」2.9%、「世界史 A」－18.9%、「日本史 A」－28.6%、「地理 A」－49.6%となっており最も減少率が高かった。

A 科目の受験者は 7,697 人で、「地理 A」の割合は 35.0%を占めており、「日本史 A」の 42.9%に次ぐ選択率であった。また、1 科目目に受験した割合は 44.8%であった。なお、「地理 A」との組合せは「現代社会」が多く 34.2%、次いで「政治・経済」との組合せが 9.3%となった。

本試験の平均点については、「地理 A」47.42 点・「地理 B」62.16 点と、昨年度と比較して「地理 A」は 5.16 点下がり、「地理 B」は 4.24 点下がったが、A 科目・B 科目の中ではそれぞれ「日本史 A」・「日本史 B」に次ぐ平均点となっている。また、「地理 A」と「地理 B」の平均点の差は、昨年度の 13.82 点から 14.74 点に広がったが、その幅は「世界史 A」と「世界史 B」との差（17.31 点）や、「日本史 A」と「日本史 B」との差（19.18 点）より小さくなっている。A 科目においては、最高の「日本史 A」と最低の「世界史 A」の平均点の差が 5.12 点であり、昨年度の最高の「地理 A」と最低の「世界史 A」の平均点の差の 4.16 点から広がった。地理歴史科、公民科の 2 科目受験が多い現状の中で、地理歴史科はもとより公民科の科目も含めて、平均点の差により受験者の有利不利が生じないように、更なる配慮をお願いしたい。

なお、試験問題の具体的な検討に当たっては、例年どおり次の視点から行った。

- (1) 高等学校学習指導要領の目標、内容等を踏まえているか。
- (2) 教科書や学習状況を踏まえた内容になっているか。

- (3) 基礎的な知識や事項の解説並びに地図や統計資料などを分析、考察して処理する能力を測定し、地理的な見方や考え方を問うことのできる内容になっているか。
- (4) 特定の分野や地域に偏ることなく、総合的な理解力を問う内容になっているか。
- (5) 問題文や選択肢の表現、難易度、形式、配点、正答率等に問題点や偏りがないように配慮されているか。

2 試験問題の内容・範囲等

今年度は平成11年告示高等学校学習指導要領による7回目の試験であるが、全般的に同要領の目標や内容に沿った問題であった。

今年度の問題は、昨年度と同様に複雑な図表の読み取りは少なかったが、一部に「地理A」の学習範囲で取り上げることが一般的でない事項や地域からの出題も見られる。出題分野については、昨年度と同様に、全般的に地理的な見方や考え方及び地理的な技能を活用させる問題を中心に出題されている。ただ、図表を読み取るだけで地理的知識がなくても容易に解答できる問題も見られた。また、本試験よりは基礎的基本的事項の出題が多く、容易に解答できる設問が見られた。

(1) 出題分野

- 第1問 地理の基礎的事項
- 第2問 国境を越えた結び付き
- 第3問 ヨーロッパ
- 第4問 地球的課題と国際協力
- 第5問 長浜市の地域調査

(2) 内 容

第1問 地理の基礎的事項に関する問題。球面上の位置、図法、大地形、小地形、気候、交通、領域など基礎的事項が幅広く問われている。「地理A」の学習内容にも配慮された基礎的な設問であるが、一部に「地理A」の学習状況では、取り上げることが少ない問題が見られた。

問1 東京の対蹠点の問題。東京の対蹠点を知っていれば解答できる知識問題である。ホモロサイン図法であるため、図から類推することはやや難しかったと思われる。

問2 ホモロサイン図法についての問題。「地理A」の学習状況からすると、図法の種類をここまで詳しく取り上げていない場合が多い。

問3 世界の大地形についての問題。大地形の分布から地理的思考を用い、解答を導き出させる良問である。

問4 世界の七つの地域の高度帯別面積の割合についての問題。グラフの読み取りから大地形の基礎的事項を問う標準的な設問である。問3の内容と重なる部分があり、問い方について工夫が必要である。

問5 4地点に共通して見られる気候の特徴についての問題。地中海性気候の分布と特徴に関する基礎的な問題である。

問6 地形についての問題。「地理A」の学習状況からすると地形の種類をここまで詳しく取り上げていない場合が多い。

問7 水上交通についての問題。景観写真を用い、説明文もあるため、地図上からその位置を

類推することは容易であったと思われる。ただし、地図上の力の示し方は工夫が必要である。

問8 領土と国境、領海と排他的経済水域についての問題。国境についての基礎的事項を問う標準的な設問である。

第2問 現代世界における国境を越えた結び付きに関する問題。「地理A」の学習では大きく取り扱われる分野である。全般的に「地理A」の学習範囲を踏まえ、地理的思考力を測る設問であった。

問1 日本の輸入額上位3位までの国・地域とそれぞれの総額に占める割合についての問題。

取り上げられている貿易品目が「地理A」の学習内容に沿っており、標準的な設問である。

問2 日本の貿易に関する近年の状況についての問題。国内企業の海外移転、WTO、農産物輸入、貿易相手国など幅広く日本の貿易について問う良問である。

問3 成田空港及び東京港の輸入額上位4品目とそれぞれの総額に占める割合についての問題。輸送手段の基礎的事項を問う標準的な設問である。

問4 3か国の訪問客の国際的流動数についての問題。「地理A」の学習状況からすると、3か国間の交流をここまで学習する機会は少なく、地理的思考力が問われる設問である。

問5 海外の四つの都市に在留する日本人の永住者と長期滞在者についての問題。「地理A」の学習状況からすると、都市ではなく国・地域等で出題してほしい。

問6 四つの国の携帯電話、固定電話、固定ブロードバンドの加入契約数についての問題。各国の経済状況から解答を導き出させる地理的思考力を問う標準的な設問である。

問7 国際機構が設立された当初の目的についての問題。「地理A」の学習状況では解答することが難しい、一般常識が含まれた設問である。

第3問 ヨーロッパの自然環境、生活・文化、民族、政治、経済に関する問題。「地理A」の学習では大きく取り扱われる分野であり、資料等を活用して地理的思考力を問う設問である。ただし、一部に「地理A」の学習範囲で取り上げることが一般的でない事項の出題が見られた。

問1 ヨーロッパの自然環境についての問題。自然環境の基礎的事項を問う設問であるが、「地理A」の学習状況では②の内容を取り上げる機会が少ない。

問2 ヨーロッパの食文化についての問題。絵画資料から食文化について考察させる工夫された良問である。

問3 ヨーロッパの3地域における伝統的な家屋景観についての問題。景観写真を読み取らせることにより、人々の生活と気候について問う良問である。

問4 ヨーロッパの3か国の主要言語の基礎的知識から解答を導き出させる地理的思考力を問う良問である。

問5 ヨーロッパの民族と文化についての問題。ヨーロッパの多文化主義を踏まえた標準的な設問であるが、「地理A」の学習状況からすると一部取り上げる機会が少ない事項も見られた。

問6 ヨーロッパの生活・文化についての問題。ヨーロッパの生活・文化について「地理A」の学習範囲では取り上げる機会が少ない事項であり、「地理A」の学習状況からの出題をしてほしい。

問7 欧州議会における議席数と国民1人当たりの分担額についての問題。3か国の経済状況と人口規模から解答を導き出させる地理的思考力を測る標準的な設問である。

第4問 資源をめぐる地球的課題と国際協力に関する問題。資源問題、環境問題、水資源、国際協力など幅広いテーマが出題されている。地図や図表を使いながら、「地理A」の学習で培われた地理的な見方や考え方を問おうとしており、工夫がなされている。また、時事的な問題が盛り込まれており、一般的な知識を必要とする設問が見られた。

問1 エネルギー消費の地域別の年平均伸び率と世界全体の消費実績についての問題。石炭、石油、天然ガスの消費について問う標準的な問題である。

問2 世界における天然ガスの産出量と輸入量についての問題。統計地図の活用については標準的な設問であるが、その背景については、「地理A」の学習状況では、解答することが難しいと思われる。

問3 四つの地点とその周辺で生じた資源やエネルギーの開発にかかわる環境への影響についての問題。世界の環境破壊や汚染について幅広く取り扱う標準的な問題であるが、「地理A」の学習状況において、一部取り上げることが少ない事項が見られた。

問4 4か国の1人当たり国内水資源量、年間総使用量とその内訳についての問題。表を読み取らせることにより、各国の気候条件や産業の状況から解答を導き出させる地理的思考力を測る設問である。ただし、「地理A」の学習状況では難易度が高い設問であったと思われる。

問5 水資源の開発や河川利用に関する国際協力についての問題。国際協力については「地理A」の学習内容に沿ったものである。また、一般常識でも判断が可能な基礎的な設問である。

第5問 長浜市に関する地域調査についての問題。問題の構成は全問「地理B」との共通問題となっているが、「地理A」の学習内容にも十分配慮したものであった。内容としては、地形図、統計資料、写真資料などを取り入れ、地理的な技能の習熟度を測るとともに、地域の変容や現代的課題を考察させる良問である。また、「地理A」の学習として大きな位置を占める身近な地域の国際化の進展や日本と世界の結び付きの様子について問う問題が最終問題として見られたことも評価できる。

問1 四つの都市における12月の平均気温と降水量についての問題。日本の気候についての基礎的理解を問う標準的な設問である。

問2 長浜市周辺の鉄道の変遷についての問題。三つの年代の略地図を読み取らせる基礎的な設問である。

問3 新旧2万5千分の1地形図による市街地周辺の変化の読み取りについての問題。地域の変容を新旧二つの地形図から読み取らせる標準的な設問である。

問4 長浜市の町並みの特徴についての問題。景観写真と説明文を参考にしながら、町並みの特徴を考察させる良問であった。

問5 長浜市と全国における製造業の業種別出荷額割合についての問題。グラフを読み取らせることにより、長浜市の製造業の特色を全国と比較し考察させる標準的な設問である。ただし、全国の製造業の業種別出荷額割合から解答が可能であり、問い方に工夫が必要である。

問6 長浜市と全国の外国人居住者の内訳についての問題。長浜市の外国人居住者の内訳の特

徴について全国と比較することにより考察させる設問である。ただし、全国の外国人居住者の内訳から解答が可能であり、問い方に工夫が必要である。

3 分量・程度

(1) 問題の程度

全般的には「地理A」の学習の成果を基に解答できる問題であった。単純に地理的知識の有無を問う設問も見られたが、昨年度と比べ、図表や資料を活用した地理的思考力を測る設問が多くなった。一部図表の指標として一般的でないものが使われている設問があり、難問もあった。

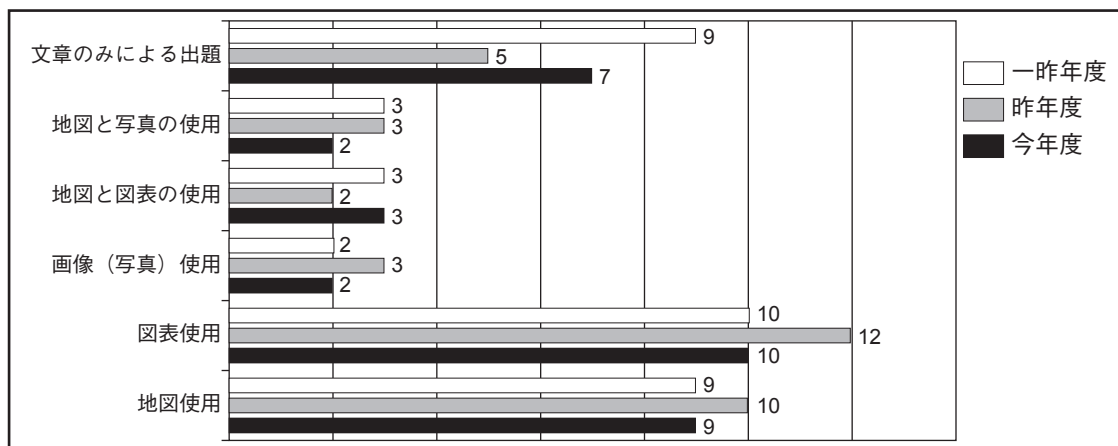
(2) 設問数

設問数は、大問数については5問と変化はないが、小問数は33問で昨年より2問減少した。60分の試験時間の中でじっくりと解答する時間を持てることが望ましいが、高配点（4点）の小問が生じたことについては後述する。

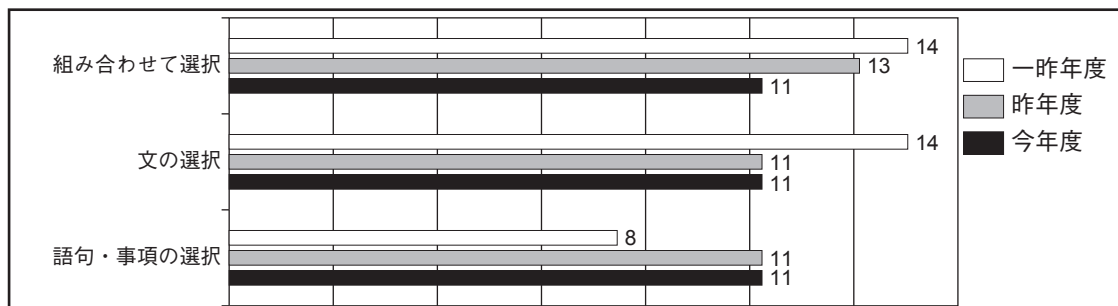
4 表現・形式

(1) 形式・配点

小問の出題形式と解答方法は、下のグラフのとおりである。今年度については「文章のみによる出題」の増加が目立つ。



グラフ1 出題形式



グラフ2 解答方法

なお、大問の形式については、小問集合（第1問）、地図と図表を中心としたもの（第2問・第4問）、地図を用いてテーマを示したもの（第3問）、地形図を用いてテーマを示したもの（第5問）とバランス良く構成されている。

配点については第4問の問1を4点とし、その他は全て3点であった。基礎的な学力を測るセンター試験の趣旨から、難易度の高い問題を高配点とするよりは、低配点の基礎的な知識問題を2題設定することが望ましいと考える。

(2) 表 現

地図・写真に不適切なものは見られず、分かりやすいものであった。

5 要 約

「地理A」は受験者が少ない上に、幅広い層の生徒が受験するため、難易度の調整についてはかなり難しいと考えられるが、今後とも基礎的な内容、範囲、形式で、適当な難易度の作問をお願いしたい。その際には、「地理B」と共通して出題された問題に関する、「地理A」受験者と「地理B」受験者との解答状況の分析が手掛かりの一つになると考えられる。

今年度の追・再試験でも、本試験と同様、「地理A」の高等学校学習指導要領で、事項や事例を選択して扱うとされている内容からの出題が見られた。このような出題があると、それに対応するため、できるだけ多くの事項や事例を扱うような学習を余儀なくされ、項目間選択や事例学習の趣旨が生かされなくなる。出題については、特定の学習事項や地域の知識・理解だけを問うのではないような問題作成をお願いしたい。今年度の追・再試験では、昨年度と比べて、学習の成果を単純な形で問う設問や、地理的な見方や考え方に基づく思考と判断が必要なく単純に解答できる設問が少なかった。ただし、図表中の指標の読み取りが「地理A」の学習内容では難しすぎる設問が一部見られた。

以上を踏まえて、今後の出題に際して、一考をお願いしたい点を次にまとめる。

- ① 「地理A」では作業的、体験的な学習を重視し地理的技能を高めることが学習の狙いの一つである。「地理A」の履修者にとって、学習の範囲を超えるような細かな知識を問う設問は避け、「地理A」の狙いや学習状況を踏まえた問題作成をお願いしたい。
- ② 一問一答問題のような単調な出題形式や、数値の増減だけに着目した単純な図表の読み取りにならないような出題の工夫や、着眼点を導きやすいよう説明文を付けるというような工夫が望まれる。特に、事項や事例を選択して扱う内容に関しては、学習していない生徒でも他の地域や地理的事象から推察して解答できるよう、問い方の工夫をお願いしたい。
- ③ 「地理A」・「地理B」の共通問題は、今年度は大問一つ（第5問）で出題された。出題の内容は、おおむね「地理A」の受験者にも配慮されていた。独自の問題作成が望ましいが、共通問題とした場合でも、今後とも、大問及び小問について「地理A」にも配慮した内容や問い方にしてほしい。

センター試験が高校現場に与える影響は大きく、センター試験が知識偏重から思考力、判断力を求める出題を増やしたことで授業が変わってきている。また、今年度から受験の形態が変更としたこともあり、「国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う」ことにつながる、「地理A」独自の学習内容を強く意識した、質の高い出題をお願いしたい。最後に、今年度作問に当た

られた諸先生方の御努力に敬意を表したい。

地 理 B

1 前 文

平成24年度の大学入試センター試験（以下「センター試験」という。）の受験者は、昨年度と比べ1,482人減少した。しかし、地理歴史科から2科目受験が可能となったことで、地理歴史科受験者数は昨年度に比べ6,058人の増加となった。これに伴い本年度の「地理B」受験者数は132,657人で、昨年度より18,888人の増加となった。

試験問題の評価については、昨年度に難易度と得点のちらばりを加え、次の7視点から行った。

- (1) 高等学校学習指導要領の目標・内容に合致し、教科書及び学習活動の実態を踏まえた内容になっているか。
- (2) 地図や図表・統計資料等を分析・考察し、処理する能力を測定する内容になっているか。
- (3) 特定の分野に偏らず、総合的に「地理的な見方や考え方」を問う内容になっているか。
- (4) 問題の分量や程度などに配慮しているか。
- (5) 問題文の表現や形式、配点などに配慮しているか。
- (6) 問題の難易度や得点のちらばりなどが適正となるように配慮されているか。
- (7) 過去の問題に対する意見・評価などを考慮して出題されているか。

2 試験問題の内容・範囲等

本年度の追・再試験は、本試験と同様に高等学校学習指導要領の目的や内容に沿った出題であった。出題分野は昨年度と同様に自然環境、資源と産業、都市と消費・観光・余暇活動、地誌、世界の諸課題及び地域調査からバランス良く出題された。ただし、本試験と同様に昨年度と比べて、全体として難易度の高い設問が多く見られ、受験者は解答を導く時間を多く必要としただろう。

また、いずれも基本的な知識や理解を問う内容を中心に、図表や地図、画像（写真）、統計資料などを活用した「地理的な見方や考え方」や「地理的技能」を問う設問も多く見られた。このように、知識のみではなく地理情報の分析や思考、判断の能力を求める出題が定着している。なお、本年度も宗教やジェンダー、人種・民族、食料や公衆衛生など日常生活に密着し、歴史的背景を考慮して思考させる設問が出題され、平成21年告示の高等学校学習指導要領の教育内容改善事項等に配慮した形となった。しかし、大問間においても、本試験と同様に昨年度と比較して、難易度の差が大きかった。

出題分野は次のとおりである。大問数は6題、小問数35題で昨年度と増減はない。なお、「地理A」との共通問題は「地域調査」のみの小問6題となり、昨年度より小問2題減少している。

(1) 出題分野

- 第1問 世界の自然環境
- 第2問 世界の資源や生産
- 第3問 都市と消費・観光・余暇活動
- 第4問 東南アジアの地誌
- 第5問 現代世界の諸課題

第6問 滋賀県長浜市の地域調査

(2) 内 容

第1問 世界の自然環境に関する大問である。乾燥地域の分布、降水の季節配分、年平均湿度と年平均気温の地域的差異、地形・植生・土壌、人々の暮らしなど、乾燥気候という視点からの出題であった。全体的には乾燥気候に関する基本的な知識と理解があれば解答できる問題が多く、取り組みやすかったであろう。

問1 世界の乾燥地域の分布について述べた文章中の下線部に関する正誤問題である。砂漠の成因、降水の要因、大気の大循環に関する知識や理解があれば、解答できる。

問2 四つの地点の月別降水量を示したグラフに関する選択問題である。地点の位置（北半球・南半球）や隔海度など、降水に影響する気候因子の正確な理解が必要であり、戸惑ったであろう。グラフの判読も細かい差を読みとる力が求められた。

問3 三つの地点における年平均湿度と年平均気温の関係を示した図に関する組合せ問題である。湿度に関する知識も求められたが、緯度や隔海度との関係から考えることができれば、容易に解答できる。

問4 乾燥地域に見られる河川の名称に関する選択問題である。乾燥地形の基本的な用語を問う設問で、容易に解答できる。

問5 降水量の少ない地域や乾季をもつ地域の地形・植生・土壌について述べた文に関する正誤問題である。乾燥気候が無樹林気候であることを理解していれば、容易に解答できる。

問6 乾燥地域における、自然環境と人々の暮らしとの関連について述べた文に関する正誤問題である。ヤクの放牧地域についての基本的な知識があれば、容易に解答できる。

第2問 世界の資源や産業に関する大問である。一部には、受験者にとって認知度が高いとはいえない国や地域を取り上げていたり、現在の国際経済を反映した時事問題との関連知識が求められるなど、かなり難易度が高い問題であった。

問1 装飾用ダイヤモンドの原石の産出量と輸出量、加工品の輸出量について上位8位までの国・地域を示した地図に関する組合せ問題である。ダイヤモンド流通や加工の特徴についての知識も必要とされた。ダイヤモンドの加工や流通についての特徴については、教科書で取り扱われることが少ないが、原石の産出と輸出に関する知識があれば、解答できる。

問2 アメリカ合衆国、オーストラリア、韓国、ドイツについて、主な産油国からの原油の輸入量を示した表に関する選択問題である。原油の輸入相手国に関する地域的な特色を捉え、四つの国の経済規模の比較ができれば、解答できる。

問3 バングラデシュ、ルーマニア、台湾、スウェーデンにおける産業別就業人口の割合を示した図に関する選択問題である。先進国、新興国（地域）、発展途上国、元社会主義国などの産業構成についての細かな知識と理解が必要であり、グラフの判読は受験者にとって難しかったであろう。

問4 ASEAN（東南アジア諸国連合）諸国からタイへの輸出について、輸出額上位3品目の輸出額とタイへの輸出総額を示した表に関する選択問題である。ASEAN域内の貿易統計という目新しい設問であったことと、各国の輸出品の特徴やタイとの貿易額についてのやや細かな知識が必要であり、教科書レベルを超えた難問である。

問5 日本の自動車製造会社主要3社の海外における完成車組立て工場の分布を国・地域ごとにまとめ、生産開始時期別に示した図に関する組合せ問題である。日本の自動車製造会社の海外進出先の推移について、時代背景を含めた細かな知識・理解が必要であり、戸惑ったであろう。

問6 国・地域外からの観光収入、特許権・ライセンス使用料収入、留学生受入数の指標について、世界に占める割合を国・地域別に示した図に関する組合せ問題である。それぞれの指標に関する細かな知識が必要である。またそれらを図から細かな違いとして読み取るのに時間を要する問題であり、戸惑ったであろう。

第3問 都市と消費・観光・余暇活動に関する大問である。本試験では村落・都市に加えて生活文化が問われたが、追・再試験では消費・観光・余暇活動の分野が問われた。一部に最近の動きを地図から読み取る設問も見られたが、基本的な内容を問う標準的な設問である。

問1 韓国、中国、ドイツの人口上位5位までの都市について、総人口に占める各都市の市域人口の割合を示した表に関する組合せ問題である。これら3カ国の都市人口についての細かな知識・理解が必要であり、戸惑ったであろう。

問2 世界の都市圏に関する事柄について述べた文に関する正誤問題である。各国の都市圏についての知識・理解があれば、解答できる。

問3 日本の三大都市圏（東京圏、名古屋圏、大阪圏）の転入超過数の推移を示した図に関する正誤問題である。三大都市圏の社会増加や都市の内部構造についての基本的な知識があれば、容易に解答できる。

問4 1955～1960年、1975～1980年、2000～2005年における東京圏（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県）の市区町村別人口増加率を示した図に関する組合せ問題である。東京圏における都心回帰についての細かな知識・理解が必要であり、戸惑ったであろう。

問5 日本の大都市圏における商業施設に関する事柄について述べた文に関する正誤問題である。商業施設の種類とその特徴についての知識があれば、容易に解答できる。

問6 世界の都市の観光・余暇活動に関する事柄について述べた文に関する正誤問題である。四つの都市の観光資源の特徴や文化についての知識があれば、容易に解答できる。

第4問 東南アジアの地誌に関する大問である。モンスーンの風向、三角州における産業や都市問題、農畜産物統計、経済や文化、貿易統計、経済指標などが出題された。一部に細かな知識・理解が求められる設問が見られたが、全体的には基本的な知識や理解を問う標準的な設問である。

問1 東南アジアの太線で囲んだ地域の夏季又は冬季の風向と降水量を示した図に関する組合せ問題である。アジアのモンスーンに関する基本的な知識と理解があれば、容易に解答できる。

問2 三角州（デルタ）が発達した四つの地域を説明した文に関する正誤問題である。それぞれの三角州における産業についての細かな知識については教科書で取り扱われることが少なく、難問であった。

問3 東南アジアにおける1965年または2005年の生産額が上位7位までの農畜産物を示した表に関する組合せ問題である。東南アジアにおける近年の農畜産物の生産の変化についての

知識があれば、容易に解答できる。

問4 四つの国における経済や文化について述べた文に関する正誤問題である。各国の歴史や民族、社会に関する知識があれば、解答できる。

問5 A S E A N（東南アジア諸国連合）加盟国の1980年又は2008年における、輸出入額の総計に占める主要な国・地域別の割合を示した図に関する組合せ問題である。A S E A N域内の貿易額の推移や中国の経済成長による貿易額の増加などを理解していれば、容易に解答できる。

問6 インドネシア、シンガポール、ブルネイ、マレーシアについて、A S E A N加盟国のG D P（国内総生産）と1人当たりG D Pを示した図からマレーシアを選択する問題である。1人当たりのG D Pに着目すれば、解答できる。

第5問 現代世界の諸課題に関する大問である。紛争問題、女性初等教育就学率・女性労働力率、人口密度、都市における公衆衛生普及率、平均寿命、食料生産と栄養摂取、ロンドンの都市問題など、世界を取り巻く諸課題を幅広く取り扱った設問である。一部に細かな知識を必要とする設問も見られるが、全体的には基本的な事項を問う設問が多く、難易度は標準レベルである。

問1 四つの地域で見られる紛争問題に関する正誤問題である。紛争地域に関するやや細かな知識が必要であり、戸惑ったであろう。

問2 アメリカ合衆国、サウジアラビア、マリ、ラオスにおける女性初等教育就学率と女性労働力率を示した図に関する選択問題である。経済の発達段階や政治体制・宗教と女性の社会進出の状況についての知識や理解が必要であり、戸惑ったであろう。

問3 サハラ以南アフリカ、中央・南アメリカ、南アジアについて、人口密度、都市における公衆衛生普及率、平均寿命をそれぞれ地域別に示した表に関する組合せ問題である。各地域のそれぞれの指標の特徴についての知識・理解があれば、容易に解答できる。

問4 アラブ首長国連邦、コートジボワール、パキスタン、フランスにおける食料生産と栄養供給について述べた文に関する選択問題である。各国の農業生産の特色や経済状況についての理解があれば、解答できる。

問5 ロンドンの都市問題について述べた文章中の下線部に関する正誤問題である。大ロンドン計画やドックランズの再開発についての知識があれば、解答できる。

第6問 滋賀県長浜市の地域調査に関する大問である。地図、グラフ、景観写真、地形図など多種多様な資料を用い、それらを読み取る能力や、総合的に分析し考察する能力が試された。地形図やその他の地図の読図では解答に時間をやや要したと思われるが、難易度は標準レベルである。

問1 長浜市、それとほぼ同緯度にある横浜市、長野県飯田市、福井県小浜市における12月の平均気温と降水量を示した表に関する選択問題である。冬の日本海側と太平洋側、内陸部の降水量や平均気温に関する基本的な理解があれば、解答できる。

問2 長浜市周辺の鉄道の変遷における各年代の状況について述べた文章中の下線部に関する正誤問題である。鉄道の変遷を地図の中で捉えることができれば、容易に解答できる。

問3 1954年と2006年の2万5千分の1地形図から読み取れる事柄について述べた文に關す

る正誤問題である。地図記号や土地利用の変化を読み取ることができれば、容易に解答できる。

問4 中心市街地3箇所に見られる町並みの写真について説明した文に関する組合せ問題である。それぞれの写真に見られる町並みの特徴を正確に読み取ることができれば、容易に解答できる。

問5 長浜市と全国における製造業の業種別出荷額割合を示した図に関する組合せ問題である。全国の業種別出荷額割合の状況に関する知識、さらに地形図から読み取れる長浜市の産業の特徴に関する理解があれば、容易に解答できる。

問6 外国語で書かれた広報紙の写真と外国人居住者の内訳を、長浜市と全国について示した表に関する選択問題である。広報誌の写真から外国人の使用言語に気付き、全国の外国人居住者の動向に関する知識があれば、容易に解答できる。

3 要 約

(1) 問題の程度

本年度も、基礎的・基本的な教科書レベルの問題から、地理的知識や考察力・思考力を必要とする問題まで、幅広く出題されてきている。また、地形図、表、グラフなどの資料も昨年度と同様に数多く用いられており、「地理的な見方や考え方」及び「地理的技能」を活用する設問が多く見られる。ただし、画像(写真)を用いた設問が昨年度の5問から2問に減少しており、出題において資料の多様性が失われないよう配慮をお願いしたい。

また、全体として標準レベルの問題が多いが、難易度が高めに設定された問題が幾つか出題されており、本試験と比較すると難しくなっていた。特に、第2問の世界の資源と産業に関する設問では、ダイヤモンドの原石の輸出量や加工品の輸出量、A S E A N諸国のタイとの貿易など教科書では余り取り扱わない細かな知識を必要とする小問が多かった。

今後の高等学校の授業においては基本的な地理的知識の習得を行いながら、「地理的な見方や考え方」及び「地理的技能」を身に付けることが重要である。さらに、リード文など与えられた条件を把握する力や「現代社会」をはじめ他の教科・科目と関連付けて、多様な視点から地域や世界を考察させる取組が求められる。

(2) 設問数・配点・形式等

設問数は大問数6問であった。本試験と同じく第1問から第4問と第6問は六つ、第5問は五つの小問で構成されており、全解答数は昨年度と同じ35題であった。

設問形式による分類	平成24年	平成23年
文章の正誤	13	15
選 択	10	6
組合せ	12	14

出題形式による分類	平成24年	平成23年
文章のみ	8	7
地理的技能	地図使用	10
	図表使用	10
	画像使用	4
	地図と図表	3
	地図と画像	1
	図表と画像	0
	地図と図表と画像	0

配点及び設問数も本試験と同じであり、※ 画像には写真を含む。

第1問、第6問で3点が四つと2点が二つで16点満点、第2問、第4問は全て3点で18点満点、第5問も全て3点で15点満点、第3問は3点が五つと2点の一つで17点満点であった。

設問形式と出題形式は右の表のとおりである。文章の正誤問題が13題、選択問題が10題、組合せ問題が12題であり、昨年度より選択問題の割合が高くなっている。組合せ問題は6択の組合せ問題が昨年度の13題から9題へ減少し、4択が昨年度1題から3題に増加した。

出題形式としては、地図、図表、画像(写真)を用いて判断する問題が35題中27題と多数出題され、例年と同様の傾向であり、地理的知識を用いて多角的な思考力を問う出題意図を読み取ることができる。資源と産業、地誌、現代世界の諸課題に関する分野では、現代世界の新しい動向を踏まえて解答するものもあり、工夫されたものであった。

(3) おわりに

本年度の追・再試験は、昨年度と同様に高等学校での学習内容が反映され、しかも幅広い分野から出題されている。昨年度までの意見や評価を考慮した出題となっていることに感謝したい。基礎的・基本的な内容を大切にしながらも、地理的な思考力を問う総合的な出題は、高等学校の授業に対しても良い影響を与えている。追・再試験は、本試験よりも難易度が高いと考えられる。難易度が高く、解答を導きにくい場合、受験者にとって不利なものになってしまう。

「地理B」の学習は「地理的な見方や考え方」及び「地理的技能」の習得を目指しており、センター試験が高等学校における学習成果を測る物差しである以上、その力を問う出題でなければならない。このような考え方に立って、様々に創意工夫を凝らして考察力・分析力を問う作問により、今後とも受験者の地道な努力が報われるような出題をお願いしたい。